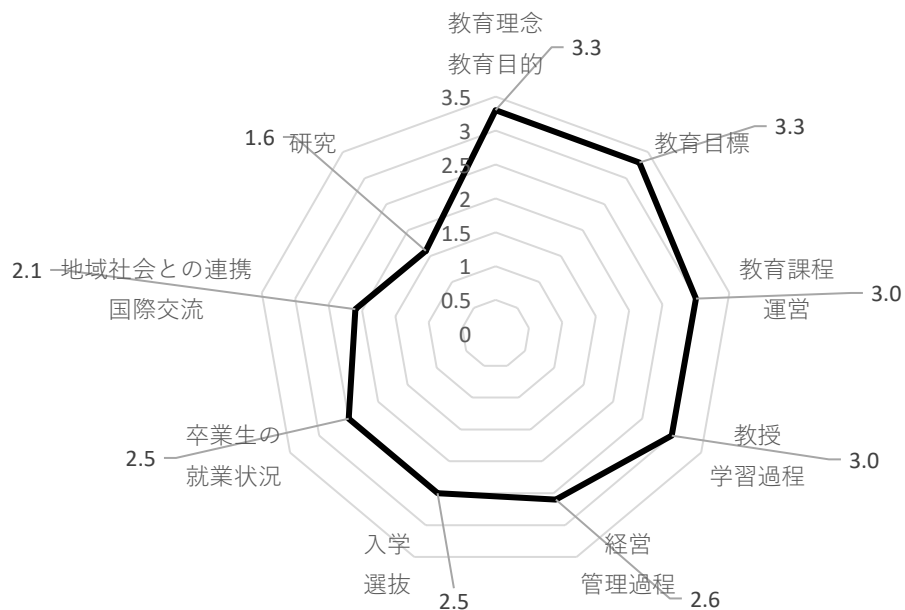


## 令和6年度教育活動等に関する自己点検評価

各小項目の平均を大項目の点数として、さらに教員10名の平均を算出(\* 資料参照)

| 教員 | 教育理念<br>教育目的 | 教育目標 | 教育課程<br>運営 | 教授<br>学習過程 | 経営<br>管理過程 | 入学<br>選抜 | 卒業生の<br>就業状況 | 地域社会<br>との連携<br>国際交流 | 研究  |
|----|--------------|------|------------|------------|------------|----------|--------------|----------------------|-----|
| A  | 15           | 15   | 46         | 45         | 36         | 6        | 8            | 16                   | 4   |
| B  | 15           | 15   | 42         | 36         | 37         | 6        | 9            | 16                   | 6   |
| C  | 16           | 14   | 40         | 35         | 38         | 6        | 11           | 15                   | 7   |
| D  | 18           | 15   | 43         | 44         | 45         | 5        | 10           | 16                   | 4   |
| E  | 14           | 15   | 35         | 30         | 29         | 6        | 8            | 11                   | 3   |
| F  | 20           | 19   | 47         | 33         | 34         | 5        | 9            | 12                   | 3   |
| G  | 18           | 20   | 37         | 35         | 32         | 4        | 8            | 10                   | 3   |
| H  | 20           | 20   | 51         | 42         | 42         | 6        | 12           | 18                   | 6   |
| I  | 15           | 15   | 41         | 33         | 35         | 2        | 12           | 19                   | 3   |
| J  | 15           | 15   | 42         | 36         | 39         | 4        | 12           | 17                   | 9   |
| 平均 | 3.3          | 3.3  | 3.0        | 3.0        | 2.6        | 2.5      | 2.5          | 2.1                  | 1.6 |

## 令和6年度教育活動等に関する自己点検評価



# 令和 6 年度 学校評価結果

## I 教育理念・教育目的

本校は、開設当初よりキリストの十字架を校名に掲げ「キリストの愛の実践理念」を基盤にした、教育理念をかかげており、授業にもその理念を取り入れて講義を組んでいる。社会に対する看護の質を保証するのに妥当でありおおむね良い評価であった。しかし、日々の学生生活の中で行動指針となっているかと言えば、不十分であり、常に意識化していかなければならない。

## II 教育目標

教育目標は教育理念・教育目標と一致しており、ゴールが読み取れる内容となっている。本校は理念にあるように、病や苦しみの中にある人々に寄り添い、人間性を高める教育を目指している。その為、知識・技術のみならず、様々な価値観や感性をはじめ、対人支援における技術やコミュニケーション能力を獲得できるように導いている。

## III 教育課程運営

新カリキュラムの進度表を基に計画通りに進んでいる。科目構成や単元構成の根拠などカリキュラム改正時の考え方や内容について、共通認識が不十分な点も顕在化し、見直しが必要な点も見えてきている。教員の授業担当の時間数も多く授業準備の時間等が取りにくいこともあり、追加で臨床の看護職に講義を依頼している。不足を補うと同時に日々進歩している看護学の臨床現場の講義は有意義なものとなっている。また、学生の傾向として再試験が年々増加している。学力低下している者については、担任やアドバイザー担当教員が関わって学習方法等の個別指導を行っている。

## IV 教授・学習過程

学生の主体性を引き出すように、授業形態は講義や演習では参加型や反転授業など取り組んでいる。年齢差や経験の差など、さまざまな学生がいる中で、個々にあった教授方法を模索している。個人差が大きく全員が十分にできているとは言えない。意欲的に課題と向き合い考える力を引き出せるように、さらに教授方法を検討して実施していく必要がある。教員は研修などを通じて改善案について試行錯誤をして、より良い授業となるよう取り組んでいる。

## V 経営・管理過程

経営、特に財政基盤については個々の教員に明示していないため、教育に関わる予算や施設設備などの計画が全員に理解されていない。このため評価はやや低くなっている。今後は財政について情報開示していく必要がある。今後、自己点検、自己評価体制を強化して、改善点を明確にして管理をしていく事と、看護専門職を育成する機関として広報活動も重要である。最大の課題は、入学生の減少であり、従来の広報活動以上に対策が急務となっている。

## **VI 入学選抜**

応募者の減少が課題であり、入学者選抜方法も変更を考慮しているところである。

## **VII 卒業生の就業状況**

卒業生の就職先は県内が多く、県外は数人である。就職先での評価についてアンケートはしていないが、直接口頭で評価を聴いている。しかし、実習施設からの評価で、それ以外の施設の評価は聞けていない。今後は統計的に処理できるようにして、教育活動に活かしていく事が重要である。

## **VIII 地域社会との連携・国際交流**

授業では、地域のことについて調べて理解を深めている。地域の行事に参加してボランティア活動を行っている。また、災害看護の一環として地域の災害訓練に参加し、消防署から講義を受けるなど連携をしている。「町の保健室」を開催して地域住民の健康の相談支援等を行っている。また、国際看護の講義も設けている。卒業生が海外に留学する際は書類作成など支援している。

## **IX 研究**

教員の研究活動は組織的に支援体制があるとは言えない。しかし、研究意思があれば支援する素地はある。